

平成26年度病害虫発生予報第10号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 菌核病 灰色かび病 ミナミキイロアザミウマ (防除情報第13号) コナジラミ類	やや少 並 やや少 並 並 多 並	やや少 並 やや少 並 並 多 並
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 コナジラミ類	並 並 やや多	並 並 やや多
たまねぎ	白色疫病 ネギアザミウマ	並 やや多	並 やや多
いちご (本圃)	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	並 並 並 やや多	並 並 並 やや多
ブロッコリー	黒腐病 べと病 コナガ	並 並 やや少	並 並 やや少

【発生予報】 本文の()内は平年値

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.3%(1.5%)、発生圃場率は8.3%(26.0%)であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は1.4%(3.3%)、発生圃場率は41.7%(41.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 病勢が進展すると防除困難となるため、早期発見・早期防除に努める。
- イ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.0%(1.6%)、発生圃場率は8.3%(23.3%)であった。

4. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率1.0%)。

5. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率1.7%)。

6. ミナミキイロアザミウマ

平成27年1月15日付け病害虫発生予察防除情報第13号による

7. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は1.3%(1.0%)、発生圃場率は25.0%(24.8%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年並が高い見込みであり本虫の発生に好適である。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.3%(0.3%)、発生圃場率は16.7%(21.9%)であった。

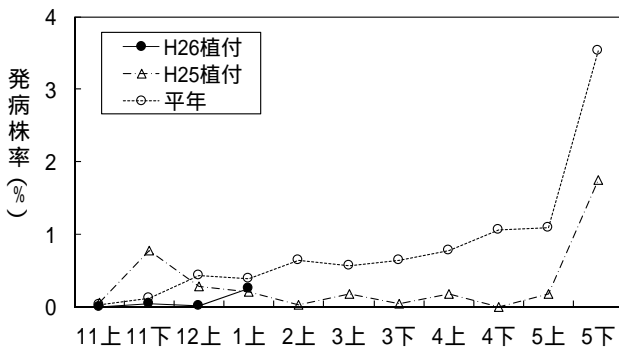


図 トマト 黄化葉巻病 発病株率の推移

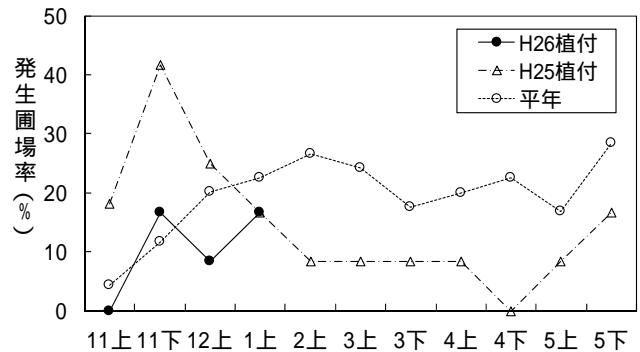


図 トマト 黄化葉巻病 発生圃場率の推移

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、果実では発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率1.0%)。葉での発病葉率は0.2%(前年0.2%)、発生圃場率は16.7%(同8.3%)であった。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は1.1%(寄生株率0.5%)、発生圃場率は41.7%(19.8%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年並が高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

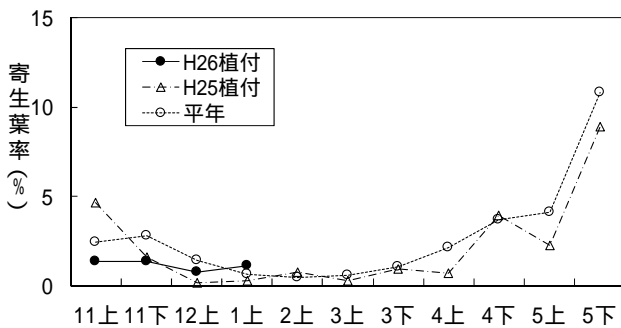


図 トマト コナジラミ類 寄生葉率の推移

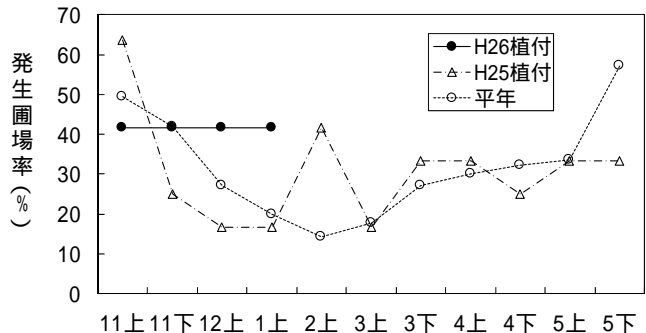


図 トマト コナジラミ類 発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア 黄色粘着板等で発生状況を把握し、早期防除に努める。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

たまねぎ

1. 白色疫病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.1%、発生圃場率0.0%)。

圃場率 0.7%)。

2. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は20.7%(9.3%)、発生圃場率は66.7%(49.4%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、葉での発生を認めなかった(発病株率0.2%、発生圃場率5.7%)。発病果率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は3.7%(3.2%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は7.4%(4.7%)であった。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.7%(1.1%)、発生圃場率は14.8%(11.7%)であった。

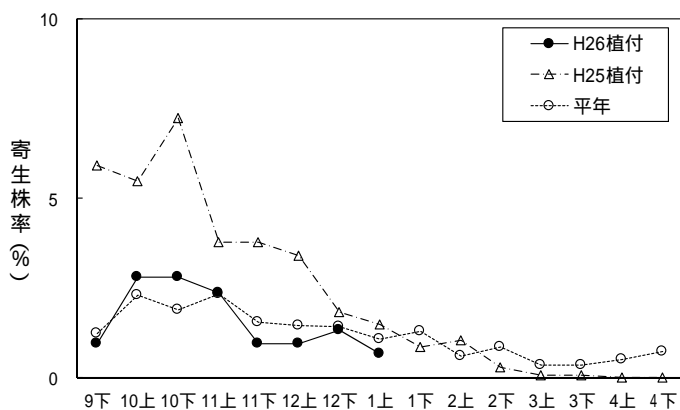


図 いちご アブラムシ類 寄生株率の推移
平年: H16 ~ H25の平均値(最大・小値除く)
ただし、12/下、1/下、2/下はH19 ~ H25の平均値

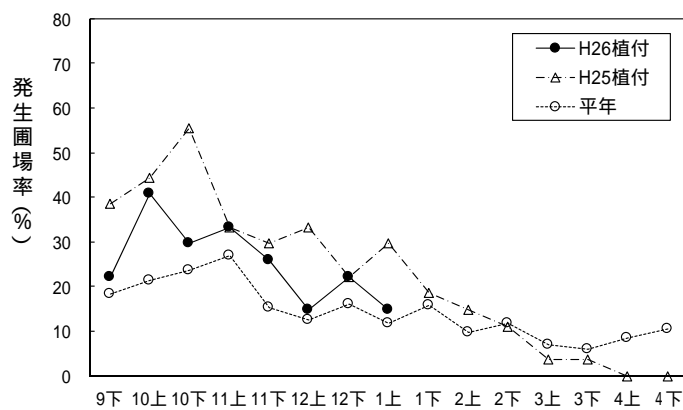


図 いちご アブラムシ類 発生圃場率の推移
平年: H16 ~ H25の平均値(最大・小値除く)
ただし、12/下、1/下、2/下はH19 ~ H25の平均値

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 花のがくに寄生しやすいので、発生を認めたら初期のうちに防除を行う。
- イ 薬剤のかけむらがあると防除効果が低下するので、葉裏まで十分に散布する。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は7.9%(4.3%)、発生圃場率は44.4%(38.4%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

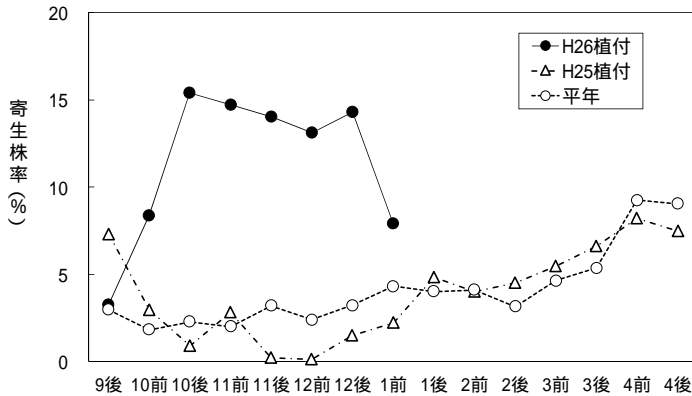


図1 いちご ハダニ類 寄生株率の推移
 平年: H16 ~ H25の平均値(最大・小値除く)
 ただし、12/下、1/下、2/下はH19 ~ H25の平均値

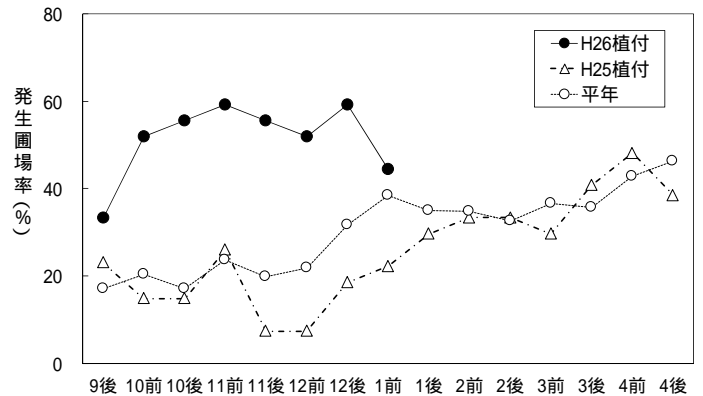


図2 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移
 平年: H16 ~ H25の平均値(最大・小値除く)
 ただし、12/下、1/下、2/下はH19 ~ H25の平均値

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 密度が高くなると防除が困難となるので、発生初期の防除を徹底する。
- イ 下葉の裏に多く寄生するので、薬剤散布は古葉の整理を行った後、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。
- エ 天敵(ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ)を使用している圃場では、ハダニ類の発生状況に応じて天敵に影響の少ない薬剤を使用する。

ブロッコリー

1. 黒腐病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(8筆)の結果、発病株率は6.0%(過去7ヵ年平均0.8%)、発生圃場率は38.0%(同5.7%)であった。

2. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(8筆)の結果、発病株率は4.5%(過去7ヵ年平均0.5%)、発生圃場率は13.0%(同1.2%)で、一部多発圃場があった。

3. コナガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(8筆)の結果、発生を認めなかった(過去7ヵ年平均寄生株率2.1%、発生圃場率16.9%)。

【参考】

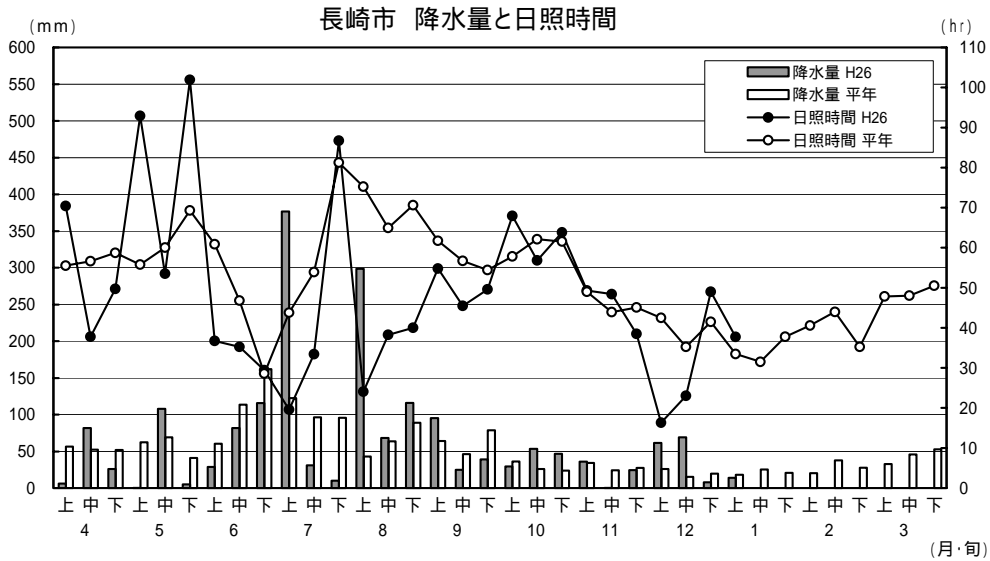
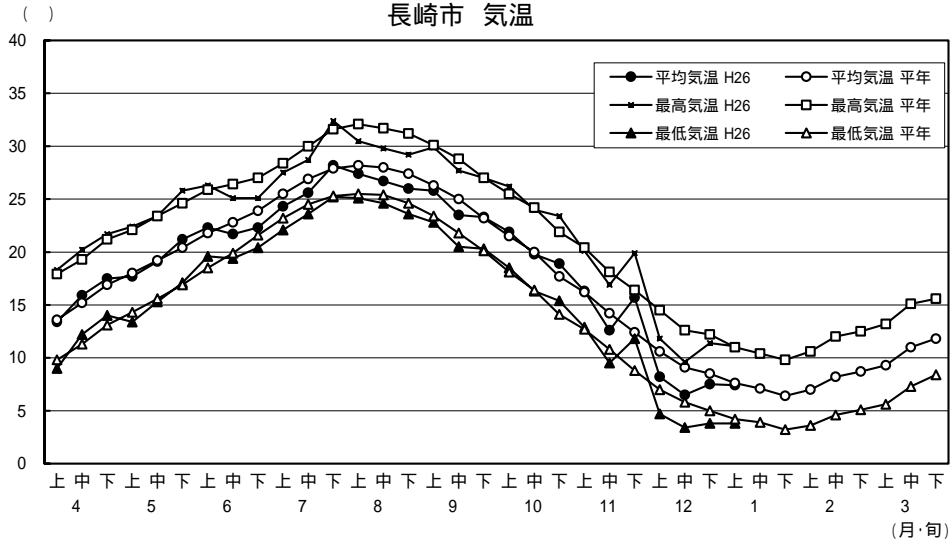
気象 (平成27年1月15日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

予報対象地域：九州北部地域

平成26年度の気象経過 (長崎地方气象台)



病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病虫害防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027